

評 価 項 目		評 価	取組状況・成果・課題	改善策	学校関係者評価・第三者評価でいただいた意見等
各学校での目標（重点は○数字）・具体策					
Ⅰ 学校教育目標や学校経営の方針の設定状況			・職員間での話し合い等がよく行われ、協力している様子が見られる。より細かなきまりなどまで話せるとさらによい。 ・教育目標達成のための具体策について、各部会で話し合い、目標を決めることができて大変よかった。 ・職員間に協力体制や、協働の気持ちが見られてすばらしい。 ・校務分掌に片寄りや個人差がある。 ・放課後の会議等の回数を減らしたり、時間を短縮したりして、事務時間を確保してほしい。	・チーム馬頭東としてさらに協力体制を築いていく。 ・担任だけでの話し合いや必要なことを確認するために、学担会を開く。	・今年度の課題や改善策に、来年度しっかり取り組んでほしい。 ・行事が多いと思う。子どもたちが落ち着いて（体育も含め）勉強ができるとよい気がする。その延長上に、運動会やいろいろな発表会等で成果が上げられるようになったらよいと思う。 ・恵まれた環境や先生方の丁寧なご指導により学校生活が充実し、学力も身に付いてきていることに保護者として感謝している。
① 愛情と情熱をもって日々の教育にあたり、職員の創意工夫と職員の和のもとに教育目標の具現化が推進されるように努める。 ・全教職員による率先垂範		A			
② 児童にとって居がいのある学校・学級づくりに努める。 ・学校行事や学年行事の工夫 ・一人一人の存在感、有有感を高める学級経営の工夫		A	・運動会の時期はとても忙しかったが、家庭訪問が玄関先だったので、多少ゆとりが生まれた。 ・行事等の活動が多い。落ち着いて学習に向かうことのできるよう到来年度考えていけるとよい。 ・何か行事あるときなどは特別日課にしてもらえるとよい。 ・3学期に29年度の目標や方針について、今年度の反省をもとに話し合い、決めておくと、来年度4月からスタートできる。	・次年度に向けて行事を精選し、ゆとりをもって授業を行い、さらに学力向上を図れるように見直しを図る。	・PTAリサイクル活動は、児童も参加し、環境問題に取り組む自然豊かな学校づくりとして何かできることはないか。ゴミの分別、節電、節水など、校内花壇に使う畑の肥料作りなどに役立てる取り組みを、子どもたちに考えさせたい。 ・教職員がのびのびと仕事ができるような学校経営をしてほしい。
Ⅱ 保護者や地域との連携に努める			・HPで、行事や校外学習、授業での児童の様子を知らせるなど、情報提供がたくさんできた。 ・学校だよりの中の、学力向上に向けてのシリーズがとてもよかった。		・これからもHPで行事や校外学習、授業の様子などを発信してほしい。「やかた」などの広報誌などでの発信もお願いしたい。 ・HPの児童の様子や内容をもう少し文面で詳しく載せてほしい。簡潔すぎて読んでいて物足りない。 ・PTA（校外）の研修会や講演会には、学年会長だけでなく、副会長も参加してもよいのではないかな。参加者が増えるとういと思う。 ・保護者アンケートの集計結果を、翌月の学校だよりに迅速に対応している。また前年度と比較ができてわかりやすい。 ・保護者アンケートに、スマホなど情報教育に関する設問を入れてはどうか。 ・保護者アンケートの設問に工夫が必要。回答がしにくかった。 ・連絡帳や電話での行き届いた気配りに、いつも感謝している。 ・宿題のプリント用紙が学年によってバラつきがある。A3、A4で統一してはどうか。 ・谷川地区のポピー園に珍しい草花を植える予定がある。できあがったら、児童にも紹介してほしい。
1 <u>HPや学校だより等を通して、保護者や地域に向け、きめ細かに情報提供し開かれた学校づくりに努める。</u> ・HPの積極的な更新等、情報発信の工夫 ・学校便り、学年便り等の各種便りによる情報提供の充実		A			
② 学校評議員会や保護者アンケートによる保護者や地域の要望の汲み上げと迅速な対応に努める。		A	・学校評議員や地域の方々からの情報収集に努めている。また、学年PTAや各種行事、保護者アンケート等で、保護者の学校に対する要望や意見等を吸い上げるようにしている。	・保護者や地域の方々の要望や意見を積極的に聞き、迅速かつ適切に対応できるように努めていきたい。	
3 学校・地域・家庭が連携した交流事業による教育の活性化 ・読み聞かせボランティアや地域人材の活用 ・高齢者との交流活動 ・農業体験		A	・町の読み聞かせボランティアを積極的に受け入れ、教育的効果が上がっている。 ・地域人材を活用することにより、学習内容の幅が広がり、より活動内容の活性化を図ることができた。	・地域連携教員を中心ににより多くの人材の活用等を図り、さらに特色ある授業・行事等を行っていきたい。	
Ⅲ 確かな学力の育成に努める			・家庭学習は、身に付いている児童とあまりしない児童に大きく分かれている。 ・朝の学習の時間にT2がいてくれると個に応じた活動ができる。 ・朝の学習はTTの活用で充実していた。 ・学力アップ週間の取り組みはすばらしかった。朝学の担任以外の職員の協力体制がとられたことはとてもよかった。 ・担任の先生方の研究授業がすばらしかった。 ・学力向上アドバイザーの訪問を受け、各担任が学力向上に向けて努めている。 ・ノート指導等の形式の統一がされていてよい。 ・次の学年の内容を見通した指導ができた。	・家庭での自主学習にも力を入れて指導していく。 ・職員室組の職員を朝の学習のTTとして活用する。 ・学力向上アドバイザー訪問事業の成果を生かして、次年度も継続して取り組む。	・家庭での学習は、甘えがちになってしまう傾向がある。学校と家庭での連絡を気軽に取っていけるとよい。 ・詩の暗唱は、とてもよい学習方法だと思われる。読書など本を読むことが少なくなっているように思うので、心の豊かになる指導をお願いしたい。 ・学力アップ週間の記録カードや自主学習ノートに、コメントやシールはんこなどを使い工夫されていて子どもの励みになっている。 ・家庭学習リレーノートは、低学年は保護者確認がされているようで内容もすばらしいものもあるが、中学年になると自分で取り組むようで、学習内容にバラつきや差がありすぎるのではないかな。保護者確認のもと一周するごとに学習テーマを決めてはどうか。 ・授業参観時に見た机の上の赤青黄の三角コーンの取り組みは、今後も継続してほしい。
1 基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させることに努める。 ・「栃木の子どもの基礎基本」の確実な定着 ・学業指導の徹底 ・個に応じた指導の充実 ・家庭学習強調週間の実施・学ぶ楽しさの醸成		B			
2 言語活動を重視した授業展開に努める。 ・詩の暗唱の推進 ・現職教育（学校課題研究）の充実		A	・学校課題研究や現職教育研修が2学期は計画的にできた。成果も上がっている。 ・詩の暗唱は各学年とも意欲的に取り組み言語活動の充実を図ることができた。		
Ⅳ 豊かな心の醸成に努める			・欠席がほとんどなく元気に登校できた。 ・昼休みの児童の様子では、自然に縦割りで遊んでいた。 ・委員会で6年生が積極的に意見を出し活動してくれた。 ・2学期の授業参観で全学年が道徳の授業を保護者に公開することができた。 ・読書が苦手な児童が多く、学年差や個人差が見られる。啓発活動が必要である。	・心の教育の充実を図るために、読書の習慣をさらに定着させていく。	・道徳はとても大切な授業だと思われる。自身に近い社会問題・事件などをテーマにして、意見を本音で話し、他人の考え方を知ると、自分の考え方の変化も生まれると思われる。答えのないものだと思うが。 ・「自分が相手の立場ならどうか」に思いを馳せることを、道徳の授業に限らず、学校も親も自らがやって見せ、子どもたちにも働きかけ、促すことが大事だと思う。
1 「心の教育」を基盤とし、思いやりの心、感謝の心や奉仕の精神と実践力の育成に努める。 ・道徳の授業の充実 ・児童理解と教育相談の充実 ・読書の奨励		B			
② 明るいあいさつやありがとう(感謝のことば)の習慣化に努める。 ・全教職員による率先垂範		B	・児童会のあいさつ運動であいさつへの意識が高まった。 ・あいさつについては改善の必要がある。自ら元気よくあいさつができるようになるとさらによい学校に	・委員会や学年を中心にあいさつ運動週間を実践した。(2学期2回 3学期1回)	・読書の中に漫画やアニメを加えてもよいと思う。 ・あいさつは、みんな気持ちよくしてくれる。

・時と場に応じた正しい言葉遣いの指導		なる。ex.)あいさつ強調月間等 ・来校者へのあいさつができない児童がいるので、時と場に応じたあいさつの仕方について、実際の場面での指導が必要である。 ・正しい言葉遣いができていない。 ・週一の児童指導打合せで各学年から情報があり、共通理解が図られている ・ありがとう運動がとてもよかった。 ・SCやSSWとの連携が図られ活用することができた。SCと保護者の相談が増えた。 ・休み時間等で、他学年に関わる時間が増えるとなりよくなると思う。 ・トイレのスリッパが乱雑なことが多かった。その場の指導や継続指導が必要である。		・交通指導で立っているときなど、あいさつがよくできている。 ・元気のよいあいさつが皆できていると、一見よい学校に感じられるかもしれないが、元気の出ないときは、静かで落ち着いたあいさつができればよいと思う。 ・あいさつは、相手に言われてからではなく、自分から進んでできるようになってほしい。なぜ自分から進んでできるとよいのかを、全校生が理解できる機会があるとよいと思う。5・6年生が率先することで、下の学年の子どもたちもみんなができる学校になってほしい。 ・あいさつや道徳教育(いろいろな人とのかわり)など、家でもできることは積極的にさせたい。 ・あいさつ運動やありがとう運動はこれからも続けてほしい。 ・あいさつ運動は、縦割り班や登校班、学年別等でグループを作り、全校生でローテーションできればよいと思う。 ・東小にかかわるすべての人(来校者、先生方、保護者、地域の方)へのあいさつの意識付けを、家庭や学校で指導できるとよいと思う。 ・教育相談を個別に行っていると聞いたが、子どもが相談した内容を保護者として把握しておきたい。 ・トイレのスリッパの乱れについて、テープ等で定位置を決めることで改善されると思う。 ・情報の識別能力や情報リテラシー(活用能力)を育てるような情報教育が必要である。
Ⅴ 健やかな体の育成に努める		・毎日職員が名札をつけ、笛をぶら下げている学校を見て、危機管理ができていると感じた。本校でも検討してはと思う。 ・健康安全に関する取組が充実していてよいと思う。 ・学校保健委員会への保護者参加増え、充実した話し合いや情報交換ができた。 ・給食を通した食育を進めることができた。 ・栄養士による指導(学活)がとても効果的だった。 ・好き嫌いや机にヒジについて食べる児童が見られる。 ・今後は残量調査等を活用し、バランスのよい食事(好き嫌いをしない等)やマナーについて、さらに指導していきたい。 ・給食シールのおかげで残す子が減っている。食べ方は家庭での指導も必要である。 ・廊下や階段の通行は課題だと思う。(歩き方や音が気になることがある。)	・3学期から名札と緊急用の笛を常時身に付ける。	・甘えからなのか、家では偏食になっているようなので、学校給食はとても助かっている。学校給食を残さず食べているという報告を聞くと安心する。 ・縦割りの活動はすばらしいと思う。自分の役割を考えて行動できるのではないゆ。 ・感染症の心配される時期のお茶うがいやマスクの着用は継続してほしい。 ・学校保健委員会での食育関連の話しを、授業参観後の研修会で行ってほしい。 ・給食がんばり賞の活動により、子どもたちが完食できる回数が増えてきていると思う。
② 教科体育の指導を充実させ、体力の向上を図る。 ・教科体育の指導内容の工夫による運動量の確保と体力の向上	B	・体力の向上を図るため、教科体育や業間で運動量を確保できるように体力づくりを工夫している。		・縦割り班での清掃では、上級生の的確な指示により、低学年でも清掃が楽しいようである。清掃場所が変わるたびに教えてくれている。
③ 日々の清掃活動に力を入れ、汚れや塵に気付き、きれいにしようとする態度を育成する。 ・清掃活動の教職員との共働	A	・廊下や階段など清掃が行き届き、気持ちよかった。 ・清掃では、6年生が1年生に声をかけながら活動している様子が見られた。 ・縦割り班の班長がリーダーになり、清掃に一生懸命取り組んでいた。上級生がうまく下級生をリードしていた。 ・清掃の仕方等が示されると、全班が同じように全ての児童のクラスをきれいにできると思う。	・行事や臨時日課によって清掃班で清掃ができないときは、自教室で整理整頓をさせるようにする。	・学校保健委員会では、食育、運動、休養、睡眠等、すばらしい話し合いと情報交換ができたと思う。 ・体力の低下が心配。体力づくりの時間を確保してほしい。 ・運動量確保に関連して、放課後の運動活動と児童の送迎を、保護者と連携してできないか検討してほしい。